おのとく 学校安全・ＳＰＳ通信

小野特別支援学校
学校安全推進委員会
2024. 12. 12 No. 8

今回は、1・2学期の SPS 認証校への視察訪問や公開訓練の参観、本校への視察等について報告いたします。

○大阪教育大学附属池田小学校	・公開訓練（５月２７日・９月５日）
○京都市立養徳小学校	・視察訪問（６月７日）・公開訓練（６月２１日）
○大阪府立中央聴覚支援学校	・視察訪問（８月２７日）
○大阪府立西浦支援学校	・本校に視察訪問（８月１日）

＜大阪教育大学附属池田小学校＞

○第2回公開訓練（5月27日）　シミュレーション訓練

① 給食中 喉を詰まらせた児童への対応
・児童の異変に気付いてからの対応や心肺蘇生の判断が早く、すぐに実施。
・すぐに応援を呼び、複数で連携して対応していた。

② 下校中 IDをつけていない不審者への対応
・不審者と思われる相手に背後を見せない。不審者との距離を保つ。
・不審者か保護者かどうかの判断。対応者は笛を吹きづらく、周囲が判断をして笛や大声で知らせる。

③ 授業中 児童を勝手に連れて帰る保護者対応
・教師が児童と保護者の間に、体を入れ、物理的に遮断して児童を守ることができていた。(警察より)

④ 授業参観中 刃物を所持した男が危害を加えようとする
・知らせを受けてから教室を封鎖するのが早く、さすまたを所持した職員が駆けつけるまでが早い。
・さすまたの使い方（胴だけを狙うのではなく、足や腕なども狙い、重心を崩す）の確認。
※訓練のあり方→シミュレーション訓練を実施→すぐに振り返りを行い、職員全体でC→Aに繋げる。

○第3回公開訓練（9月5日）　不審者対応訓練

・侵入経路不詳で、実習生が児童役となり実施。
・各対応班で事前に役割とねらいを確認→訓練を実施→振り返り。
・笛の合図が交錯し、初期対応班をはじめ、複数の職員が前回より不審者の位置確認に時間がかかった。
教室のドア閉め、負傷した児童の止血等の初期対応が課題に挙がった。

【公開訓練の参観を通して】
・全職員が緊張感をもって、訓練に取り組んで組織的に動いていた。1人1人が役割に基づき考えて動いていた。
・笛の音や大きな声の合図、放送により素早い対応がとれていた。
・訓練を何度も重ねている学校でも、初期の臨機応変な対応は難しい。
※訓練を通した素早い反応と１人1人の役割意識による組織的な対応が被害を最小限にすることにつながる。

○小野市内小中学校合同視察訪問（8月5日）

昨年度に引き続き、大阪教育大学附属池田小学校に視察に行った。今年度は、学校安全総合支援事業の一環として、市教委や市内小中学校の教職員と一緒に9名で訪問した。

池田小学校の校長先生より、「池田小での事件の詳細」「現在の池田小の取り組み」「学校施設・設備の案内」の説明を伺った。また、校長室にある、被害に遭われた児童の写真の前に献花を行い、お祈りをした。

・どれだけやっても完璧ではないという危機意識 ⇒ 設備・取組
・不審者対応訓練に向かう真摯な態度
⇒ 大切な子どもたちの命を守ろうとする責任感
・事件を風化させない。悲しい思い出として終わらせない
⇒ 安全科・校舎の再編・祈りと誓いの塔
・地域、関係機関、保護者を巻き込み⇒「全ての子どものため」

＜京都市立養徳小学校＞

〇視察訪問（6月7日）

養徳小学校の「HANA モデル（緊急時対応）」を中心とした、学校安全の取り組みの紹介や学校施設案内を校長先生から伺った。「HANA モデル」ができた経緯や京都市全体で、その実践に取り組んでいること、小規模で比較的少ない教職員で、どう組織的に対応していくか、校長先生の思いも含めて知ることができた。

〇公開訓練（６月２１日）「HANA モデル」を取り入れた学校安全体制の構築（実地訓練）

・養徳小学校では、年間を通して、「食物アレルギー、落下事故、水泳事故、不審者対応」の実地訓練を実施。

・今回は、R6 年度第４回 ６月21日 水泳事故　※訓練は、児童下校後、職員のみで実施。

・参観、訓練の視点確認⇒実地訓練（現場・本部）⇒実地訓練、動画視聴（現場・本部）⇒事後協議、質疑応答

ねらい　けがや病気の症状の判断、情報の共有など緊急時に対応する組織的な役割理解しと、適切な行動。
校内マニュアルの使い方、AED、保健書類等の保管場所等を確認し共通理解する。

訓練の想定：5 時間目 ５年生水泳学習中ノーパニック症候群による溺水

【実地訓練の振り返りと気づき】

〇全職員が緊張感をもって、訓練に取り組んでいた

・想定を知らない　・過去の事例　・初期対応の速さ　・臨機応変な対応

〇短冊による指示で、迅速な動きが取れていた（発見から17分で救急搬送）

・緊急時でも、本部では落ち着いて指示　・短冊確認で職員が冷静に

〇現場での混乱と体力の消耗、不確かな情報の伝達の課題

・現場職員が本部へ保護者連絡に必要な内容伝達に時間がかかった

・心肺蘇生実施職員が連絡する際、判断力や伝達力が低下

・現場、誘導の職員が、記録ではなく、伝え聞いた情報を保護者にしていた

＜大阪府立中央聴覚支援学校＞

〇視察訪問（6月7日）

中央聴覚支援学校の学校安全コーディネーターの方に、授業見学（高等部）の案内、実践交流、学校施設見学を行っていただいた。実践交流では、本校の実践も発表し、質疑応答をしていく中で理解を深めることができた。

中央聴覚支援学校は、3度目の SPS 認証ということで「生活安全」「災害安全」「交通安全」のすべての領域で認証されている。初めの認証から7年目ということで、人や児童生徒たちが入れ替わる中、継続して取り組みを進めていく難しさや、継続することで定着したもの、聴覚支援学校ならではの取り組みが、他の校種にも役立つこと等について担当者の思いも含めて知り、学びの機会となった。

【視察を通した気づき】

・緊急時の合図が4色のパトランプやモニターを活用し即座に危険とその内容を伝えている。光や視覚的合図は、本校でも役立つ。

・緊急時に必要な物品を１つにセットしている、緊急時に持ち出しやすい。

・地震等で学校に避難することを想定し、児童生徒個人の非常食や薬を3日分常備している。学校としても、避難所用に毛布、水等の物資を保管。 保護者にも安全意識を高める機会となる。

・SPS サポーター委嘱制度の活用　児童生徒が、コーナークッション、右側通行の目印などを設置。自分自身で身近な危険に気づく大切さ。

・安全連携：学校安全総合支援事業の活用⇒全国のSPS推進校と交流。
学校防災アドバイザー派遣事業⇒防災士の方と定期的に会議を実施。

緊急時対応カード（各階に）

＜大阪府立西浦支援学校＞

〇本校に視察訪問（8月１日） SPS 認証に向けて本校に来校。　内容：互いの実践交流・本校の施設・設備案内。

西浦支援学校は、規模が大きく、学校全体の取り組みを進めるのが難しいとのこと。
本校の校務分掌を整理した委員会組織や、全職員が関わる仕組みづくりなど沢山の質問を受けた。
本校の実践から返答する中で改めて、実践の整理ができた。今後も、継続して交流していきたい。